

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム高岩

ユニット名 太陽

自己評価実施年月日 平成 20 年 11 月 4 日

記録者氏名 西山美智子

記録年月日 平成 20 年 11 月 11 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作成し、ホームの見やすいところに掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼で読み合い、理念を理解できる様日々話し合いを持ち、職員全員が実践できる様取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には入居案内でわかり易く説明をしている。地域の方々には、来所してもらった時入居者さん職員と一緒に過ごしてもらい理解を得る様努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方からは畑でとれた野菜や、お花などをいただき、顔見知りの入居者さんと一緒にお茶を飲みながら話をしたり交流ができています。ご近所の方と玄関前で過ごしたり散歩時入居者さん、職員ともに声掛けをしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のミニデイに入居者さんと職員と一緒に参加して、色々な行事を楽しんでいる。一斉清掃には元気な入居者さんと職員が参加している。また地域の方からもホームの行事に参加していただき交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員さんとは常に連携をとり、独居老人の実状を把握し、事業所として出来ること、安全確認や災害時の避難場所としてホームを利用していただく等。ゴミ置き場の整理整頓などは、元気な入居者さんと一緒に行う。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実践する意義を理解するために、自己評価作成に当たり職員と話し合いをした。改善については日々気がついた事から取り組んで行くよう努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容、特に家族代表の方や、地域代表の方からの意見など職員に報告をして日々のサービスにつなげて行くよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの向上につなげれる為に、町の福祉課の方、保健師さんとは交流を持ち、来所してもらったり、出向いて行って意見を聞かせてもらったりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の方から話を聞いたり資料をもらって勉強はしているが理解はまだ不十分である。地域の生活支援の方にもお世話になり現在1名が検討中です。	○	全職員が勉強する機会を持てるよう検討中です。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のミーティングで虐待防止については繰り返し話し合いを持って防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけゆっくりとわかり易く説明を行い、必要に応じて繰り返し行い理解、納得を得ている。説明は文章を提示して行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に不満や要望を言ってもらえるように日常的に話す機会を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム通信を毎月発送したり、面会時生活の様子を見ていただいている。健康状態は必要に応じて随時行っている。金銭管理は管理者2名で行い、家族には支出の説明を行い確認をしてもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの信頼関係を築き、意見や要望などを言ってもらえるよう努めている。直接いいにくい場合は意見箱や電話などを利用してもらうよう話している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き、管理者は必要に応じて運営者に報告、相談を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化を優先できるよう話し合いはもっている。必要に応じて増員もして対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員移動により混乱をする事のないよう十分配慮している。可能な限り入居者さんに合わせて馴染みの職員がお世話をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、ホーム内での勉強会、法人内での合同勉強会には全員が参加できるよう配慮して日々のサービスに活かせるよう取り組んでいる。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への訪問、又、迎え入れ、情報交換を行いご意見をいただく等サービス向上へつながる様努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何でも話し合える人間関係を築き相談し合っている。年に数回は皆で食事会をしたり、遊びに行ったりしてストレス発散をしている。また、休憩が取れる時間を配慮している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務態度などから、個別にお褒めの言葉をかける等、自信をもって働けるよう努めている。また、個々の意見を取り入れて自主的に仕事ができるようはからっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの期間にお会いする機会を設け本人とゆっくり話をしてその中で困っている事をキャッチできるように努めている。お世話を任してもらえよう関係づくりに配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の意向をよく聞き、来所していただき、ホーム内の案内や入居者さんの生活様子をみていただく等、安心、納得してもらおう機会を設けている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族にとって今何が一番必要かを面会時に状況判断をして、必要に応じて他施設の関係者の意見も聞いて対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族と共に来所していただく機会を設けて、職員、入居者さんと一緒に過ごしていただく、食事を一緒にしてもらおう等雰囲気を感じてもらおう。馴染みの職員、入居者さんが多く安心してもらっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添う日常生活の中で昔からの生活習慣、作法等を教えてもらっている。特に田舎特有ののらわしなど非常に勉強になり、また田舎料理の調理方法などを学んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での生活状況を見ていただき一緒に過ごす時間を持ち、食事、おやつも一緒に食べていただく等職員は家族と共に過ごす。その中で身体状況等を報告している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には家族と本人が落ち着いて過ごせるよう配慮している。時にはお茶も一緒に飲み会話にもは入り、よい雰囲気をもっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域の方に気軽に来所してもらい一緒に過ごす機会を設けている。生活歴、地域での役割などを把握して、日常生活の中で話題に出し、思い出を語ってもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲間作りができるよう、個人の性格、特徴を把握し支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時には、本人、家族、主治医と相談して納得いく退所としている。以後も必要に応じて相談を受けて継続して関わりを持っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向にを配慮しながら、状態にあったペースで暮らしを支えている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報、生活歴、職歴、家族構成を把握し、それに添った生活ができる支援ができるよう努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の身体状態を考慮し、その人に合った過ごし方、新聞、本の読み聞かせをしたり、身体を動かして楽しむ等、皆と一緒に過ごしたり、お部屋でゆっくり会話をしたりそれぞれの暮らし方の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を考慮した上で、スタッフでミーティングを行い介護計画を検討している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた計画はもとより、変化が生じた場合にはその都度スタッフと話し合い計画の見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のファイルには日々の様子、実践などを記録して情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医療機関の協力が得られて月2～3回の往診を受け、治療を必要としても現状の生活が維持できる様にしている。専門医（眼科、耳鼻科等）の受診の際には送迎の支援を行う等可能な限り支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区部落長、民生委員、社会福祉協議会、生活支援、消防団、ボランティアの方々とは日頃から交流を持ち、ホームの内容を説明して協力を得ている。また、職員が地域にはボランティアとして活躍をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所、ケアマネジャー、他施設の担当の方々とは日頃から連携をとり、必要に応じて相談をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には本人・家族の意向などを地域包括支援センターとも相談し合って検討している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の診察は定期的を受けている（月2・3回）が、必要時には随時受診できる体制にあり、本人、家族ともに納得していただいている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師とは日常的に連携をとり、相談したり必要に応じて、受診、治療ができるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内に看護師を配置しており、母体である病院勤務の看護師の協力も得て健康管理ができています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	安心して入院治療ができるよう援助する。医療機関とは入院時より退院に向けての話し合いを行い、必要に応じて面会を重ねて退院の準備をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には家族と度々話しあい、必要な時には主治医も交えて話し合いを持ち、方針を理解しあっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、主治医と相談し、指示を仰ぎ、本人、家族の意向を尊重できる支援に努力している。職員間ではどのような関わり方が必要かを話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	混乱やダメージを防ぐ為に、家族や関係者とは十分話し合いを持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の勤務の中でも気がついた事をお互い注意し、また、毎日のミーティングでもプライバシー保護の徹底に努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いが言える様な雰囲気作りに努めている。気長くゆっくり聞いてやり、個人に合ったペースで会話する。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの生活リズムに合わせるよう配慮しており、本人の希望に添った暮らしができるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理、美容へ行っており、家族の協力も得て本人に合ったおしゃれ、身だしなみができるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れたメニューを心がけており、ゆったりした雰囲気の中で食事を楽しんでもらえるよう工夫している。可能な限り準備や後方づけを一緒にしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは禁煙としているが、他は嗜好を聞いて、お酒、牛乳、ヤクルトなど希望に添えるよう努めている。現在の入居者さんには喫煙者はいません。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パットの汚染を軽減し気持ちよく排泄ができる事を目指し、個人の排泄パターンを把握して個人に合った誘導を行い、プライバシー保護にも配慮して支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる体制にあり、本人の希望や体調により安全かつ快適な入浴を提供している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	光、音、温度、又、寝具などの個人にあった調整を行い。安心して良眠できるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人に合った楽しみ方を工夫している。塗り絵、パズル、カラオケ等。又、洗濯物の方付け、食後のテーブル拭き等負担ならない程度の役割をこなしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物や外食等の際できる方は自分で支払う等お金を大切に使っている。理解できない方については職員が手伝っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調を考慮し、気候状況に合わせて屋外散歩をしている。レベルに合わせて職員が見守りや付き添いを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間の行事としての遠足やお花見、運動会には家族と共に出かけしており、日常では本人の希望を聞き、道の駅、コンビニ、ドライブ、季節の花見等、他入居者さんと一緒に出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける際にはかけ間違いのないよう手助けをしている。家族からのプレゼントのお礼状、年賀状などは出来ない部分をお手伝いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関はいつも開放しており気軽に訪問してもらっている。訪問者があれば一緒にお茶を飲み、馴染みの方なら皆で会話をする等楽しく過ごしている。地域の方の訪問は度々で皆と一緒に過ごし楽しんでもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	○	職員全員が順次研修会に出席してさらに身体拘束防止について学べる機会を設ける事を検討。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけず、鍵はかけない介護をしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に安全が確認出来る事よう配慮している。その中でプライバシー保護には十分気をつけて介護をしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ホールや台所の危険性のある物品は夜間は目のつかない場所に始末をしている。本人の持ち物に対しては家族の協力も得て危険な物は置かないようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人のレベルに合った介護を行い、自己防止には徹底して取り組んでいる。		
70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内での研修を重ねて落ち着いて対応ができるよう努力している。	○	機会を設けて、救急隊の方からの指導も受けるよう検討する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練が活かせるよう日常の勤務中も意識を持つように努力している。地域の消防団、役場とは協力を得られるよう常に働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族との話し合いの中では特にリスクについて説明をし、個人能力、身体状態の報告とともに理解をしてもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の体調を熟知して、変化早期発見に努めている。変化が生じた時には速やかに対応し必要と判断したら主治医に連絡をして指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止には徹しており名前、食前、食後等確認をして、服用介助を行っている。個人のファイルには薬の内容、作用などがわかるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人の排便チェックを行っており、水分摂取繊維の多い食品を摂取、また個人にあった運動をする等日常的に行い、薬はできるだけ使用しないよう努力している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のケア、夜間の義歯の消毒を行っている。歯科訪問治療も受けており、口腔ケアについてのアドバイスを受けて実践に取り組んでいる。	○	訪問歯科の先生からは口腔ケアについてのお話を一度いただいたが、何度か先生の講義を聞ける機会を設けて職員全員が研修できるように検討する。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好や摂取量を考慮して、不足や過度にならないよう支援している。水分不足にならないよう個人の状態や習慣の応じて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し全職員が認識できるよう研修を重ね、日々実践している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具は衛生管理を行い、安全で衛生的な食材を使用し食中毒などの防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の方や家族が気軽に入出入りしやすいよう、玄関はいつも開放している。中まで入らなくても玄関先でもくつろいでもらえるよう配慮している。ご近所の方には駐車場の利用も自由にしてもらっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	迷いや混乱を招く事のないよう配慮し、馴染みのあるものを飾り、昔の生活を思い出し、懐かしんでもらえるよう工夫している。生活感を感じ落ち着いて過ごしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気ままに過ごし入居者さん同士が自由に利用できる様ソファや椅子を配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話し合いで入居の際には馴染みの家具や大切にしていた物を持ち込んでいただき、入所後は本人が一番落ち着いて過ごせるよう本人と話し合い、雰囲気作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者さんにあった温度調整をこまめに行い、温度差に注意している。換気もまめに行い、空気清浄にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を確保できるように工夫しており、必要な場所には適切な手すりを取り付け自立した生活に利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人のレベルを職員全員が把握しており、混乱や失敗を防ぐためにトイレの位置や自室への入り口への目印を工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い駐車場を生かし外気を浴びながらの屋外での食事、おやつ、水分摂取、健康体操、ゲームなどを楽しみ、ご近所の方とも会話を交わしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

田舎ならではの自然環境の中で、ゆったりと穏やかな生活を送っていただき、入居者さん、職員ともに馴染みの方が多く不安のない、安心かつ、快適な日常生活を支援しております。職員は入居者さんから生活歴、食生活を通じて学び、寄り添って日々暮しております。また、過疎地域を生かし、小人数での学校からの訪問、婦人会、部落会、ミニデイ参加等、家族的な交流ができています。特に地域ボランティアの慰問、職員が地域へのボランティア活動に出向くなど地域との交流を深めております。